

# ふくし 1 月号



赤羽根家 © 中央共同募金会

# とちぎ January 2024 No. 512

- 発行/社会福祉法人栃木県社会福祉協議会  
〒320-8508 宇都宮市若草1丁目10番6号  
とちぎ福祉プラザ内  
TEL 028(622)0524  
FAX 028(621)5298
- 編集・デザイン/有限会社随想舎
- 発行日/令和6年1月10日
- ホームページ/<https://www.tochigikenshakyo.jp/>



## 障害者スポーツスクール が初めて開催されました。



ボランティアの支援を受けながらボール投げに挑戦



車いすで3分間走を力走

スポーツを始めたい障がいのある方に対するきっかけづくりや、指導者やボランティアが障害者スポーツを経験する場としてスポーツスクールが開催されました。競技者の裾野拡大や競技力向上が図られました。

も	新年のご挨拶	2
く	特集 「障害者スポーツスクール」を初めて開催 障害者がスポーツに親しむきっかけづくり	4
じ	カルフルとちぎ 2023 こころのつどい	7
	成年後見セミナー報告	7
	寄贈報告	8
	栃の実基金活用事業 (茂木町社協)	9
	会員・栃の実基金寄付募集	10



この広報誌は、赤い羽根共同募金の助成により発行しています。

「ふくしとちぎ」の1面を飾る写真を読者の皆様から募ります。テーマは「福祉」に関するものです。とっておきの1枚をぜひお寄せください。



# 新年のごあいさつ



社会福祉法人栃木県社会福祉協議会

会長 関根 房三

新年あけましておめでとうございます。

栃木県社会福祉協議会の活動に対しましては、日頃から御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、本会事業におきましても感染症防止対策を継続しながら、徐々に対面や集合での事業を再開させて頂きましたが、長期にわたり感染症対策を行いながら福祉活動に携わられている福祉施設職員や民生委員・児童委員、ボランティアをはじめとした福祉関係者の方々に改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、本会では昨年より、令和4年に本県で開催された「第22回全国障害者スポーツ大会『いちご一会とちぎ大会』」のレガシーを継承し、障害のある方の社会参加を一層促進する事業を展開しております。大会で高まった機運を一過性のものとせず、引き続き県民の障害者理解のさらなる醸成に取り組んで参ります。

また、本年は本会にとりまして、令和3年4月に策定した栃木県社会福祉協議会活動推進計画(第4期)の中間見直しの年となります。策定から3年を迎え、この間の社会情勢の変化や法改正等を勘案し、計画目標の再設定を行い、福祉関係者や県民の皆様と協働しながら、「明るく活力あふれる地域づくり」を目指した地域づくりの推進を図って参りますので、なお一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の御健康と御多幸を祈念いたしますとともに、明るく笑顔あふれる一年となりますようお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



栃木県知事 福田 富一

新年あけましておめでとうございます。

県民の皆様には、日頃から地域福祉の推進に御支援と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年は、栃木県誕生150周年の節目であり、我が国で初めてとなるG7男女共同参画・女性活躍担当大臣会合が開催されるなど、記念すべき1年となりました。今後とも、県民の皆様と力を合わせ、国内外から「選ばれようちぎ」の実現に努めて参ります。

さて、近年、人口減少や少子高齢化の進行、地域のつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く環境が大きく変化し、「ケアラー」をはじめ、「8050問題」や「孤独・孤立」など、人々が暮らしていく上での課題も多様化・複雑化する中、誰一人取り残さず、全ての人が地域、暮らし、生きがいとともに創り、高め合っていくことができる「地域共生社会の実現」が求められております。

このため、県では、栃木県地域福祉支援計画において、「安心して暮らせる地域づくり」「地域を担うひとづくり」「地域福祉の基盤づくり」の3本の柱を掲げ、市町や社会福祉団体等の皆様と連携し、各種施策を展開しているところです。

また、昨年4月には、「栃木県ケアラー支援条例」が施行となり、全てのケアラーが個人として尊重され、社会から孤立することなく、安心して生活することができる地域社会の実現に向け、ケアラーを社会全体で支えていく気運の醸成を図るとともに、ケアラー支援に関する様々な施策を進めております。

こうした取組を着実に推進するためには、社会福祉協議会をはじめ、地域に根ざした活動をされている皆様方のお力添えが不可欠でありますので、引き続き、より一層の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の御健康と御多幸、そして、本年が素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



## 特集

# 「障害者スポーツスクール」を初めて開催 障害者がスポーツに親しむきっかけづくり

「障害者スポーツスクール」が、昨年11月19日と12月10日、宇都宮市の「とちぎ福祉プラザ 障害者スポーツセンター（わかくさアリーナ）」で開かれました。スポーツを始めたい障害者に対するきっかけづくりや、指導者やボランティアが障害者スポーツを経験する場を提供することが目的です。両日は自分に合ったスポーツを探そうと、県内各地から多くの参加が集まりました。

自分に合う競技を  
見つけてもらう

2022年10月に開かれた「全国障害者スポーツ大会いちご一大会」とちぎ大会」には、全国各地から大勢の選手役員が訪れました。県内の各競技会場は多くの観客でにぎわい、障害者スポーツの楽しさをより広く知ってもらう機会となりました。昨秋にはそのレガシーを引き継ぎ、「栃木県障害者スポーツ大会」も開催され、盛況でした。

今回の「スポーツスクール」は、これらの取り組みを踏まえ、スポーツに挑戦したいと思いつつながら

も、機会を見つけれずにいる人たちに、自分に合った競技を見つけてもらおうと初めて開かれました。栃木県、栃木県障害者スポー



スクールに先立ちあいさつする駒崎会長

ツ協会（とちぎパラスポーツ推進センター）が主催し、栃木県理学療法士会、とちぎスポーツ医科学センター、栃木県障がい者スポーツ指導者協議会が協力しました。障害者当事者だけでなく、サポートする立場の人たちの経験の場としても位置づけられました。

「推進センター」の  
活動の一環として

主催団体である「とちぎパラスポーツ推進センター」は、栃木県障害者スポーツ協会が、県から運営を委託される形で昨年6月に発足しました。「いちご一大会とちぎ



全力で疾走する参加者

大会」のレガシーを継承し、スポーツを始めたい障害者への運動の機会提供や、障害者をサポートする指導者、ボランティアの確保、



ボールを投げて距離を測ります

資質向上、競技団体などのマネジ  
メントを行うことを目指していま  
す。

日常的には各種相談活動、コー  
ディネーターやボランティアの派  
遣、選手と競技団体のマッチング  
などに取り組んでおり、今回の「ス  
ポーツスクール」もその重要な活  
動のひとつとなりました。栃木県  
障害者スポーツ協会の阿久津好彰  
事務局長は「以前からも同様の活  
動は行ってきましたが、6年越し  
に準備を進めて成功させた22年の  
『いちご一会とちぎ大会』の灯を

消すことなく、より発展させてい  
こうということであります」と、  
センターの意義を語ります。

各地から集まった  
約30人がチャレンジ

11月19日の「スポーツスクー  
ル」には、県内各地から約30人の  
障害者が参加しました。県のホー

ムページや広報紙など  
で知って応募した人た  
ちです。知的障害、精  
神障害、肢体不自由、  
聴覚障害、視覚障害な  
どさまざまですが、ス  
ポーツにチャレンジし  
たいという熱い思いは  
みんな同じです。

実施に先立ち、パラ・  
ボート競技の選手で栃  
木県障害者スポーツ協  
会の駒崎茂会長が激励  
のあいさつ。参加者の  
奮闘に期待を寄せまし  
た。日程は3部に分か  
れ、第1部が「基礎測



垂直跳びに挑戦

定」、第2部が「競技実演」、第3  
部が「競技相談・体験」の構成で  
す。午前9時半過ぎ、体をほぐす  
運動から始まりました。続いて体  
重、握力、長座、上肢長・肩関節  
柔軟性、垂直跳び、メディシンボー  
ル投げ、20メートル走、3分間走  
などの各種測定に挑みました。

各種運動などで  
身体の機能を測定

第1部「基礎測定」では、栃木  
県理学療法士会、国際医療福祉大  
学、とちぎスポーツ医学科学セン  
ター、栃木県障がい者スポーツ  
指導者協議会から、約30人のボラ  
ンティアが測定をサポートしまし  
た。20メートル走や3分間走など  
で、中にはかなりハードな種目も  
ありましたが、参加者はボラン  
ティアの人たちの励ましを受けな  
がら奮闘しました。参加者はそれ  
ぞれの数値をチェックシートに書  
き込み、自分がどんなスポーツに  
向いているのかを判別する資料作  
りを行いました。

車いすで3分間走を走った栃木  
県立那須特別支援学校高等部3年  
の印南光剛さん(18)は、息を切  
らせながらも満足そうな表情。「ス  
ポーツを見るのが好きで、自分で  
も何かやってみたいと思っていま  
した。学校にこのスクールの案内  
が来たので参加してみました。疲  
れたけど楽しかった」と話しまし



た。今回の結果を分析し、自分ができることを見つけて「新しい体験につなげていきたい」と語りました。

パラ・ボート競技の市川選手が講演

第2部の「競技実演」には、駒崎会長と同じパラ・ボート競技の市川友美選手がゲストとして出演。駒崎会長とトークセッションを繰り広げ、自らの経験を通してスポーツの楽しさを語りました。

市川選手は愛知県西尾市の出身。マリンスポーツやウィンタースポーツが好きで、スポーツを中



「疲れたけど楽しかった」と印南さん

心にした生活を送っていました。が、スノーボードで滑っていた時に大けがをして、車いすの生活となりました。車いすの生活に慣れてくると、やはりスポーツをしたいという思いが強くなり、東京都パラリンピック選手発掘プログラムがきっかけで、ボート（ローイング）競技の世界に足を踏み入れました。



スポーツの楽しさを語る市川さん

その後、着実に力をつけ、18年にブルガリアで行われた世界選手権で7位、19年に韓国で行われたアジア選手権では2位の好成績を収めました。また、21年の東京パラリンピックにも出場し、11位という好成績を残しています。現在は今年のパリパラリンピック大会、26年のアジアパラ競技大会出場を目指してトレーニングを積んでいます。

小さな積み重ねを大切にしてほしい

市川選手はローイングとはどういう競技かをスライドを使うなどしながら説明。競技生活の中で体験したさまざまなエピソードを紹介しました。現在は施設、ユニホームの仕立て、車いすの性能など、障害者への配慮が行き届くようになってきたことも話しました。

駒崎会長とのトークセッション

の中では「私は何かが優れていたわけではありません。体験会での経験を少しずつ積み重ねてきただけだと思っています。皆さんはここにいることで既に一歩を踏み出せています。できることが増えていく小さな積み重ねを大切に頑張ってください」と励ましの言葉を語りました。

ボートの練習に使うエルゴマシンでボートの練習の様子も実演。参加者



市川さんと駒崎会長の指導でエルゴマシンを体験する参加者



からも希望者が体験する姿も見られました。

**県内の各競技団体が  
体験の場を提供**

午後から行われた第3部「競技相談・体験」には、県内で活動している各競技団体・チームが、実際に即して参加者のさまざまな相談に応じました。

陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウ



各競技団体が設けた相談ブース

リング、ボッチャ、バスケット、車いすバスケット、ソフトボール、グランドソフトボール、バレーボール、フットソフトボールの各競技団体がブースを設け、関係者が競技の内容や練習方法などについて説明しました。多くの競技でスタッフの指導のもと、簡単な体験も行われ、参加者は自分に合った競技を見極めようと真剣に取り組んでいました。



スポーツ医学に基いた相談もありました

**パラ選手発掘に期待**

**栃木県障害者スポーツ協会**

駒崎 茂会長

2022年の『いちご一会とちぎ大会』を引き継ぎ、昨年6月には「とちぎパラスポーツ推進センター」も発足して、今回、初めてのスポーツスクールを開催することができました。

近年、パラスポーツに関する関心は、急速に高まっています。このスクールが新たにスポーツに取り組みきっかけとなり、県内の選手発掘の機会になればと思います。回を重ねればデータの蓄積が進んでいきますので、続けていくことが何より重要です。

これまではス



駒崎茂会長

スポーツをやりたいくても、どこに相談すれば分からなかったかもしれません。今後、推進センターがスポーツを始めた障害者と、競技団体や指導者、ボランティアなどの関係者をつなぐ役割を担っていきますので、ぜひ多くの人に活用いただければと思います。



## 「カルフルとちぎ 2023 ころのつどい」が開催されました!!

11月3日(金)文化の日に、とちぎ福祉プラザで「カルフルとちぎ 2023 ころのつどい」が開催されました。当日は快晴のもと、各種イベントや作品展示、芸能発表、模擬店や体験コーナーなどが設けられ、たくさんの来場者でにぎわいました。

正午から行われた「つどいのセレモニー」に、本会の関根会長が出席。とちぎ視聴覚障害者情報センターからは手話通訳者を派遣し、情報のバリアフリーに努めました。

本会の職員も、イベントの受付やセルフ製品の販売、駐車場係やとちぎ福祉プラザの安全な開館等、それぞれの担当で“つどい”を大いに盛り上げました!!



## 「令和5年度 NHK 歳末たすけあい」を行いました!!

昨年も12月1日～12月25日まで、『NHK 歳末たすけあい』が実施されました。

初日となる12月1日(金)は、栃木県共同募金会のみなさんと、宇都宮市内で街頭募金活動を行いました。

募金に御協力いただいた皆様、ありがとうございました。



## 初めてでもよく分かる！成年後見制度普及啓発セミナー in 那須烏山 報告

12月1日(金)那須烏山市社会福祉協議会との共催により「初めてでもよく分かる！成年後見制度普及啓発セミナー in 那須烏山」を開催し、市民をはじめ福祉関係者等90名の方にご参加いただきました。

セミナーでは宇都宮家庭裁判所主任書記官から成年後見制度の目的や内容について講演をいただき、続いて県内で活躍する司法書士の方から成年後見制度の活用事例を学びました。参加者から「すぐに必要でなくとも、知っていることで今後役立つことがあるかと思います。」「実際に制度を利用するとなった際に、どのようなタイミングが適切なのかについて、今後も理解を深めていきたいと感じました。」などのご感想をいただきました。

本会ではこれからも判断能力が十分でない方が、住み慣れた地域で自分らしく生活を営み続けるための支援の一つとして成年後見制度の普及啓発に取り組んで参ります。





## ご寄附ありがとうございます

皆様よりご寄附いただきました寄附金・寄附物品につきましては、  
寄付の趣旨に基づき、社会福祉推進のための事業等に活用させていただきます。  
栃木県ボランティア活動振興センターでは、県民の善意による金銭又は物品の預託を受け、それを  
必要とするところに払出しを行っております。

### 【寄贈一覧（令和5年4月から11月まで） ※順不同】

預託者名（敬称略）	預託品	払出先
一般社団法人 東日本大震災 雇用・教育・健康支援機構	カプセルトイ 1,385 個	県内児童養護施設（4 か所） // 子ども食堂（15ヶ所）
株式会社セブンイレブンジャパン	食品 314 箱 雑貨 105 箱	県内市町社会福祉協議会 （7 か所）
とちぎコープ生活協同組合	紙おむつ 105 袋	県内市町社会福祉協議会 （2 か所）
栃木県中央食販株式会社	パックご飯 206 箱	県内市町社会福祉協議会 （10 か所）
栃木県保健福祉部保健福祉課	保管品（食料・衛生品等） 930 セット	県内市町社会福祉協議会 （14 か所）
向島流通サービス株式会社	不織布マスク 15 セット （1 セット…50 枚×40 箱）	県内市町社会福祉協議会 （6 か所）
24 時間テレビ	福祉車両 3 台	県内社会福祉施設（3 か所）
	冷蔵庫等設備品	県内子ども食堂（6 か所）
生命保険協会栃木県協会	「子ども食堂支援」助成金	県内子ども食堂（6 か所）



栃木県中央食販株式会社様から寄贈されたパックご飯



とちぎコープ生活協同組合様から寄贈された紙おむつの配布会

### 【問合せ】

栃木県ボランティア活動振興センター（社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 地域福祉・ボランティア課）

TEL：028-622-0525



令和5年度

スケールメリットを活かした割安な保険料で  
充実補償をご提供します!



ホームページでも内容を紹介しています  
<https://www.fukushihoken.co.jp>



社会福祉施設総合損害補償

# しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

## プラン 1

### 施設業務の補償

(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、  
動産総合保険、費用・利益保険)

#### 1 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間1年

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故に対応	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等の各種費用	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ● 施設の医療事故補償
  - ・ 医務室の医療事故補償
  - ・ 看護職の賠償責任補償
- オプション3 ● 施設の借用不動産賠償事故補償
- オプション4 ● クレーム対応サポート補償
- オプション5 ● 施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

#### 2 個人情報漏えい対応補償

#### 3 施設の什器・備品損害補償

## プラン 2

### 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

- 1 入所型施設利用者の傷害事故補償
- 2 通所型施設利用者の傷害事故補償
- 3 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償



## プラン 3

### 職員等の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- 1 職員の労災上乗せ補償
- 2 使用者賠償責任補償
- 3 役員・職員の感染症罹患事故補償
- 4 雇用慣行賠償補償



## プラン 4

### 法人役員等の補償

(役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事  
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)



## 栃の実 基金 活用事業

茂木町社会福祉協議会

# 子どもの居場所づくり

茂木町社会福祉協議会が運営する「冒険遊び場 プレーパークもてぎ」は、茂木町並松運動公園の日本庭園の一角にあります。毎月第2、第4土曜日に開設され、パーク内では、木登り、木を使った遊具での遊び、生き物探し、工作など、工夫次第でいろいろな楽しみ方ができます。家では難しいことも、ここでは自然の中で自由にできるとあって、町内はもちろん他市町からも子どもたちが訪れるようになりました。

昨年11月11日にはちよつと遅れたハロウィンのランタン作りを行いました。参加した子どもたちは、カボチャをくり抜く工作に挑戦。1時間ほどかけてかわいいランタンに仕上げました。「ここに来るといろんなことができて楽しい」と笑顔を見



カボチャのランタン作りに挑戦

せました。また、県立茂木高校の生徒たちがボランティアで運営に参加しており、この日も同校2年生の木村優月さんら5人が、子どもたちの作業を手伝っていました。

同社協の福祉活動専門員の山形大介さんは『自然』がコンセプト。季節に合わせていろいろな遊びに取り組んでいます。子ども同士ももちろんですが、保護者の交流の場としても活用してもらえれば」と話しています。

## 「賛助会員募集・栃の実基金への寄附の募集」

本会の活動を支援してくださる賛助会員や栃の実基金への寄附を募集しています。

### ①賛助会員

- ・本会の趣旨・目的に賛同する企業・篤志家の皆様です。
- ・賛助会費は一口5,000円からとなります。
- ・会員サービスとしては、本会広報誌をはじめとした各種福祉情報の提供、本会主催研修の受講費用の割引などがあります。

### ②栃木県地域福祉振興基金「栃の実基金」への寄附

- ・皆様からの善意の寄附金を原資とし、その運用から生まれる果実（利子）で地域の福祉・ボランティア活動等を支援しています。
- ・栃の実基金で支援する活動には、高齢者や障害者を対象としたサロンを開催する居場所づくり、親子向けの子育てサロンや子ども食堂などを開催する子育て支援、災害支援活動等があります。

皆様からの会費やご寄附は、様々な福祉・ボランティア活動の振興を図るための財源として大切に活用させていただきます。

詳しくは、本会ホームページまたは総務企画課までお問合せください。